
 学 会 記 事

第9回新潟急性腎不全治療研究会

日 時 平成14年10月24日(木)

会 場 有壬記念館

一 般 演 題

1 急性腎不全を呈したマイコプラズマ肺炎に伴う急性糸球体腎炎の一例

山崎 肇・田沼 厚人・遠藤 禎郎

関口 珠美・佐伯 敬子・宮村 祥二

上野 光博*・西 慎一*・

下条 文武*

長岡赤十字病院内科

新潟大学大学院腎膠原病内科学分野*

症例は75歳の女性。生来健康であったが、2002年5月25日頃から咳嗽、発熱が出現。左中下肺野に浸潤影が出現し、5月30日セフェム系抗生物質無効の肺炎として当院呼吸器科に入院。クラリスロマイシンとイミペネムムの加療が開始され、炎症反応は改善傾向にあった。入院後の血清検査によりマイコプラズマ肺炎と診断されたが、6月10日頃から浮腫、高血圧、乏尿が出現。高窒素血症、肺うっ血のため6月15日から血液透析に導入された。6月18日に腎生検が施行され、びまん性の管内増殖性腎炎と尿細管間質性腎炎の所見であった。6月末から利尿がつき始め、血液透析を離脱したが、血尿ならびにネフローゼ状態が持続した。アンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬を開始して経過観察を行い、現在24時間クレアチニンクリアランス60ml/分、尿蛋白0.9g/日まで改善してきている。

マイコプラズマ肺炎後の急性糸球体腎炎、急性腎不全の報告はまれであり、文献的考察と併せて報告する。

2 急性腎不全となり血液浄化療法を必要とした溶連菌感染後糸球体腎炎の女児の一例

村上 修一・森岡 良夫・上野 光博

西 慎一・下条 文武・田中真美子*

鈴木 俊明*・大久保総一郎*

内山 聖*

新潟大学大学院腎膠原病内科学分野

同 小児科学分野*

症例は8歳の女児。生来健康で、学校検診で異常を指摘されたことはなかった。平成14年2月7日に目が開けられないほどの眼痛、眼瞼浮腫のため近医を受診。アレルギー性結膜炎と診断され点眼薬を処方された。2月9日より39℃台の発熱と、嘔吐、下痢が出現。自宅にあったボルタレン坐薬50mgを使用し様子を見ていた。次第に呼吸困難、全身の浮腫が強くなるため、2月12日に村上総合病院小児科を受診。全身の浮腫、BUN 119mg/dl, Cre 3.3mg/dl, K 6.7mEq/lより急性腎不全と診断され、2月13日未明に当院小児科に救急車にて搬送され緊急入院した。入院後、急性腎不全、うっ血性心不全の診断でCHDFを施行したが、無尿が持続するため2月27日に腎生検を施行。高度の管内増殖性糸球体腎炎と急性尿細管壊死が認められたため、ステロイドパルス療法を2クール行ったところ、利尿が得られ透析治療より離脱できた。

3 頭蓋咽頭腫手術歴のある急性腎不全の1例

萩野宗次郎

新潟労災病院内科

症例は65才女性。S53年、頭蓋咽頭腫の手術。S54年、下垂体前葉ホルモンの補充療法を開始。55年腫瘍の再発でBLMの局注治療。S56年に再手術、術後Co60照射療法施行。S57年、結節性紅斑で一時PSL30mg使用。S62年、左側頭葉の放射線障害によると考えられた壊死組織が出現し摘出。H4年には、食欲不振と倦怠感で脳外科に入院。腎障害と高Na血症あり、輸液、副腎皮質および甲状腺ホルモン補充で軽快した。H12年、便秘による腸閉塞で内科に入院。この時、石灰化胆石